

創脳理論



序論

AI進化の時代を迎え、人の脳(HI)はどうすればいいのか。誰もその答えを出し得ていない。その原因は、これまでの脳科学の延長上で、考えているからです。その答えは、「創脳理論」です。HI(人脳)は「創脳」への改質方向に進化します。ポイントは、脳の進化ではなく、脳の改質です。

なぜ「創脳理論」なのか

① AIとHI(人脳)の進化格差

AIという人工知能の著しい進化を迎えているが、人の脳(HI)そのものは、生物としての脳機能の進化は出来ません。AIとHIの脳機能進化の格差が、次代に多くの問題をもたらすこととなります。

② 進化格差の対処

AIに互角に対処できるHIの生物的脳機能進化を期待できないとすれば、別の方策として脳機能の改質という方向性です。HIの既存の脳機能に対し、指令=統合システムの組織改革(意識改革)の方向があります。つまり、今あるHIの全ての脳機能を意識としてマネジメントする手法です。

③ 創造的マネジメント機能を有する「創脳」。

生物の進化は「創造的進化」と言えます。生物としてなりたい自分を新たに創り出すために、自分の機能を創造的に進化させてきました。「生物の進化は正しく、自己実現の創造的進化の歴史」と言えます。AIに対する絶対的優位性は、AIには真似できない生物固有の創造的進化に習い、なりたい自分を成就させるため、HIの脳機能を創造的にマネジメントする指令・統合する機能を有する新たな脳を「創脳」と呼びます。

④ 創造性を捉えなおす。

創脳という創造的マネジメントシステムに、HIを改質する上で、今までの脳科学に於ける右脳の中の一機能としての創造性という捉え方から抜け出て、脳機能全体を創造的にマネジメントするという、より上位に高めた捉え方に見方を変えなくてはなりません(右脳の創造性から、脳全体を創造的にマネジメントさせる脳力として、脳機能の上位に昇華した創造性)。

同時に、創造性とは何かを、「創脳改質」の上からも、その捉え方をゼロから見直す必要性が求められます。創造性という脳力は、芸術家などの特殊な脳力と見なさず、万人が、日々の生活での様々な問題や悩みの創造的解決にも役立つ、平準化した、誰もが、生涯に渡り、必要とする必須脳力です。

⑤ 戦術的創造的手法から戦略的創造的手法にシフト

これまでの脳科学に於ける創造理論での実践的な創造性を育む手法は、KJ法など、即効的な戦術的手法が殆どでした。「創脳理論」に於ける戦略的フレームを有した創造的マネジメントは、正に、マネージングそのものが戦略的手法となります

創脳理論誕生の流れ

